

拠点名称：森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現拠点

代表機関	秋田県立大学	プロジェクトリーダー	高田 克彦 秋田県立大学 木材高度加工研究所 教授
幹事自治体	秋田県	幹事機関	国際教養大学、秋田公立美術大学 株式会社Q0、一般社団法人サステナブル経営推進機構、株式会社秋田銀行
参画機関	京都大学、神戸大学、静岡大学、森林研究・整備機構森林総合研究所 能代市、大館市、株式会社竹中工務店、トヨタ車体株式会社、株式会社日建設計、株式会社イトーキ、株式会社長谷萬、森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社、有限会社r-homeworks、詩の国秋田株式会社		

プロジェクトの概要

日本社会は、世界に先駆けて人口減少と高齢化を経験しており、これに対応する新しい社会デザインが求められている。なかでも地方では1950年代から若者人口の流出が続いており、地域経済の縮退や担い手不足が深刻な問題となっているが、こうした「地域の縮退」を解消し、持続可能な地域社会を実現する仕組みは未だ提案されていない。我々は、こうした状況の原因を社会構造上における「循環の滞り」にあると捉えており、その結果、産業、技術、人の3つの要素の空洞化を引き起こしていると考えます。

本提案はこのような問題意識に立ち、秋田県に豊富にある森林資源に着目し、森の価値変換を通じて循環の滞りを超越し、当該地域において自律的な豊かさが体現される社会の実現に挑む。このために、「文化・産業」、「素材・技術」、「人・知」の3領域において、森の恵みをフル活用するための研究開発と人材育成を展開する地域拠点を構築する。この拠点は、代表機関である秋田県立大学の「技術力」に国際教養大学の「教養力」と秋田公立美術大学の「デザイン力」を組み合わせ、さらには連携機関の「研究力」、自治体の「行政力」、民間企業の「社会実装力」を結集し、森の生態系サービスなどの既存価値を現代的価値に変換するとともに、今までにない新たな価値を創造することで、自律した豊かさが実現される拠点の形成を目指す。

本拠点の全体像

